

## 資本的収支の決算

資本的収支では、下水道管や浄化センター設備・機器の新設、取り替えなどに必要な支出と、それらの事業を行うために金融機関などから借り入れたお金や国から交付される補助金などの収入、過去の借金の元本の返済金などを経理しています。

平成30年度には、建設改良事業として、常盤町地区の雨水管を新設したほか、同地区の汚水管を改築・更新する工事を行いました。

また、浄化センターの水処理設備の更新工事を実施したほか、富岸町

などで、居住者の希望に応じ、移管を含めて3基の浄化槽を設置しました。

その結果、資本的収支の決算額は、収入が12億1千473万円、支出が17億8千672万円となり、収入と支出の差引では、5億7千199万円の不足となりました。

不足分については、収益的収支で、減価償却費など現金の支出を必要としない経費によって生じる内部留保資金により補てんしました。

## 今後の見通し

平成28年度に策定した『下水道事

業経営戦略』では、令和3年度以降に、資本的収支で生じる不足額を内部留保資金で補てんすることが難しくなり、資金不足が生じる見込みとなったため、平成30年1月1日から下水道使用料を引き上げました。

その結果、平成30年度下水道事業決算については、収益的収支の営業損益は赤字となったものの、経常損益は黒字となり、最終的な経営成績を示す純損益も黒字となりました。

また、資本的収支は、平成29年度以前と同様に、収入と支出の差引で生じた資金不足を、収益的収支で生じた内部留保資金で補てんしている状況ですが、平成30年度時点における補てん財源の残高は2億1千364万円となり、経営戦略策定時における使用料改定前の見込みを1億2千600万円上回る結果となりました。

下水道使用料の引き上げにより、登別市の下水道事業会計の資金不足は当面避けられる見通しですが、今後も、人口減少などを背景とした使用料収入の減少が見込まれ、下水道事業の経営はより厳しさを増していくものと予想されます。

将来にわたって、市民の皆さんに下水道サービスを安定的に提供できるように、維持管理経費の縮減や施設の効率的な整備などを行い、さらなる経営健全化に努めてまいります。

問い合わせ  
下水道グループ  
(011) 9052

## 工事の一例



▲合併処理浄化槽新設工事

◀常盤町での雨水管新設工事

下水道は、市民生活を支えるインフラとして、利用者である市民の皆さんにより支えられています。

市は、今後も、下水道事業の経営状況などについて、広報紙などで市民の皆さんにお知らせしていきますので、下水道事業へのご理解とご協力をお願いします。

## 資本的収支の決算状況 (単位：万円)

項目	金額
資本的収入	121,473
企業債	86,990
金融機関などからの借入金	86,990
負担金及び分担金	3,735
利用者からの負担金など	3,107
一般会計からの負担金	628
補助金	30,748
国からの補助金	14,778
一般会計からの補助金	15,970
資本的支出	178,672
建設改良費	56,285
下水道管整備のための経費	41,649
浄化センター整備のための経費	14,361
浄化槽整備のための経費	275
企業債償還金	122,387
借入金の返済	122,387
収支不足額	△ 57,199

**用語解説** 下水道事業経営戦略：平成29年度以降12年間に見込まれる施設投資額や使用料収入額をまとめ、将来にわたり安定的に事業を継続するために必要な取り組みをまとめたもの。

※金額については消費税を除いています。